

男女平等に関する市民意識・実態調査 概要版

平成 21 年 9 月

この概要版は、「男女平等に関する市民意識・実態調査」の結果をとりまとめたものです。調査は、男女平等・共同参画に関する市民の意識や家庭生活の役割分担の実態等を把握し、「あきしまジェス21 昭島市男女共同参画プラン」の見直しや今後の市の施策を検討するための基礎資料とすることを目的として実施しました。

目 次

| | | | |
|-----------------------|---|------------------------|----|
| 回答者のプロフィール ----- | 2 | 5 就労について----- | 8 |
| 1 家庭生活と社会生活の両立について--- | 3 | 6 社会参加・地域活動について----- | 9 |
| 2 家庭生活について ----- | 4 | 7 人権について----- | 10 |
| 3 子育て・教育について ----- | 5 | 8 男女共同参画社会の実現に向けて----- | 12 |
| 4 介護について ----- | 7 | | |

調査の実施概要

1 調査の設計

| | |
|------|----------------------------|
| 調査地域 | 昭島市全域 |
| 調査対象 | 昭島市在住の満20歳以上の男女 |
| 標本数 | 2,000人 |
| 抽出方法 | 住民基本台帳からの無作為抽出（層化二段無作為抽出法） |
| 調査方法 | 郵送配布 - 郵送回収 |
| 調査期間 | 平成21年5月29日（金）～6月12日（金） |

2 回収結果

| | | 標 本 数 | 有効回収数 | 有効回収率 |
|---|---|--------|-------|-------|
| 男 | 性 | 1,000人 | 374人 | 37.4% |
| 女 | 性 | 1,000人 | 544人 | 54.4% |
| 総 | 数 | 2,000人 | 918人 | 45.9% |

この概要版を読むにあたって

- ・グラフ中の数値は、その質問項目に該当する回答者の数（nと表示）を100.0%として計算した比率です。
- ・計算の都合上、四捨五入しているため、比率の合計は100.0%にならない場合もあります。
- ・複数回答の質問は回答の合計が100.0%を超えることがあります。

回答者のプロフィール

1 性別 (%)

| | n | 男性 | 女性 |
|--|---|----|-----|
| | | 全体 | 918 |

2 年齢別 (%)

| | n | 20歳～29歳 | 30歳～39歳 | 40歳～49歳 | 50歳～59歳 | 60歳以上 | 無回答 |
|----|-----|---------|---------|---------|---------|-------|------|
| | | 全体 | 918 | 13.3 | 20.4 | 18.3 | 22.9 |
| 男性 | 374 | 11.0 | 18.7 | 18.4 | 24.1 | 27.5 | 0.3 |
| 女性 | 544 | 14.9 | 21.5 | 18.2 | 22.1 | 23.3 | - |

3 結婚の有無別 (%)

| | n | している (事実婚 含む) | していた (離別・ 死別) | 結婚経験が ある(計) | していない (未婚) | 無回答 |
|----|-----|---------------------|---------------------|----------------|---------------|------|
| | | 全体 | 918 | 68.1 | 8.8 | 76.9 |
| 男性 | 374 | 66.3 | 5.9 | 72.2 | 27.8 | - |
| 女性 | 544 | 69.3 | 10.8 | 80.1 | 19.5 | 0.4 |

4 家族構成別 (%)

| | n | ひとり暮らし (単身世帯) | 夫婦のみ (1世代家族) | 夫婦と未婚の 子ども (核家族) | 親と 子ども夫婦 (2世代家族) | 親と子どもと 孫 (3世代家族) | ひとり親家族 | その他 | 無回答 |
|----|-----|------------------|-----------------|------------------------|------------------------|------------------------|--------|-----|-----|
| | | 全体 | 918 | 10.1 | 19.8 | 47.5 | 4.1 | 7.5 | 7.7 |
| 男性 | 374 | 13.6 | 21.1 | 44.4 | 4.0 | 6.7 | 7.5 | 2.4 | 0.3 |
| 女性 | 544 | 7.7 | 18.9 | 49.6 | 4.2 | 8.1 | 7.9 | 2.9 | 0.6 |

5 職業別 回答者本人 (%)

| | n | 自営業・自由業・家族 従業員 | 常勤の勤め 人 | アルバイト・パート タイマー (学生は除く) | 人材派遣会 社の登録社 員 | 在宅の仕事 (内職・請 負など) | 家事・育 児・介護な どに専念 | 学生 | 無職 | その他 | 無回答 |
|----|-----|-------------------|------------|------------------------------|---------------------|------------------------|-----------------------|-----|------|-----|------|
| | | 全体 | 918 | 9.7 | 38.5 | 19.3 | 2.3 | 0.7 | 8.9 | 2.0 | 14.9 |
| 男性 | 374 | 13.6 | 60.2 | 8.8 | 2.1 | - | - | 1.6 | 10.7 | 1.9 | 1.1 |
| 女性 | 544 | 7.0 | 23.5 | 26.5 | 2.4 | 1.1 | 15.1 | 2.2 | 17.8 | 0.9 | 3.5 |

職業別 配偶者・パートナー (%)

| | n | 自営業・自由業・家族 従業員 | 常勤の勤め 人 | アルバイト・パート タイマー (学生は除く) | 人材派遣会 社の登録社 員 | 在宅の仕事 (内職・請 負など) | 家事・育 児・介護な どに専念 | 学生 | 無職 | その他 | 無回答 |
|----|-----|-------------------|------------|------------------------------|---------------------|------------------------|-----------------------|-----|------|-----|------|
| | | 全体 | 625 | 11.8 | 41.0 | 14.7 | 0.5 | 0.3 | 6.1 | - | 18.4 |
| 男性 | 248 | 8.9 | 11.3 | 28.6 | 0.4 | 0.4 | 15.3 | - | 26.2 | 1.2 | 7.7 |
| 女性 | 377 | 13.8 | 60.5 | 5.6 | 0.5 | 0.3 | - | - | 13.3 | 1.3 | 4.8 |

6 介護の必要な同居者の有無 (%)

| | n | いる | いない | 無回答 |
|----|-----|-----|------|-----|
| | | 全体 | 796 | 8.2 |
| 男性 | 313 | 8.3 | 89.5 | 2.2 |
| 女性 | 483 | 8.1 | 90.7 | 1.2 |

7 子どもの有無別 (%)

| | n | いる | いない | 無回答 |
|----|-----|------|------|------|
| | | 全体 | 796 | 70.7 |
| 男性 | 313 | 67.1 | 29.4 | 3.5 |
| 女性 | 483 | 73.1 | 25.5 | 1.4 |

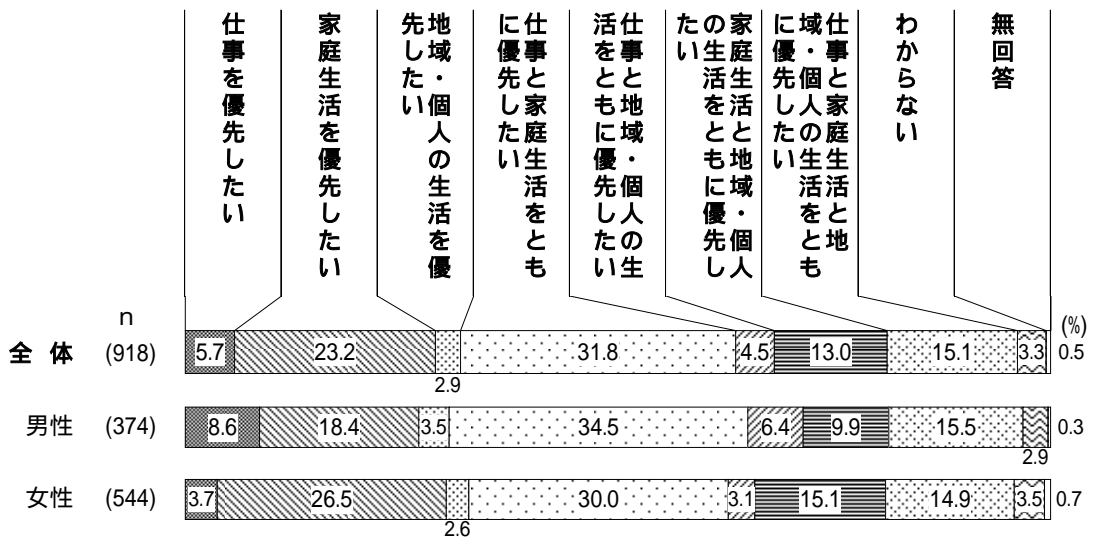
調査結果

1 家庭生活と社会生活の両立について

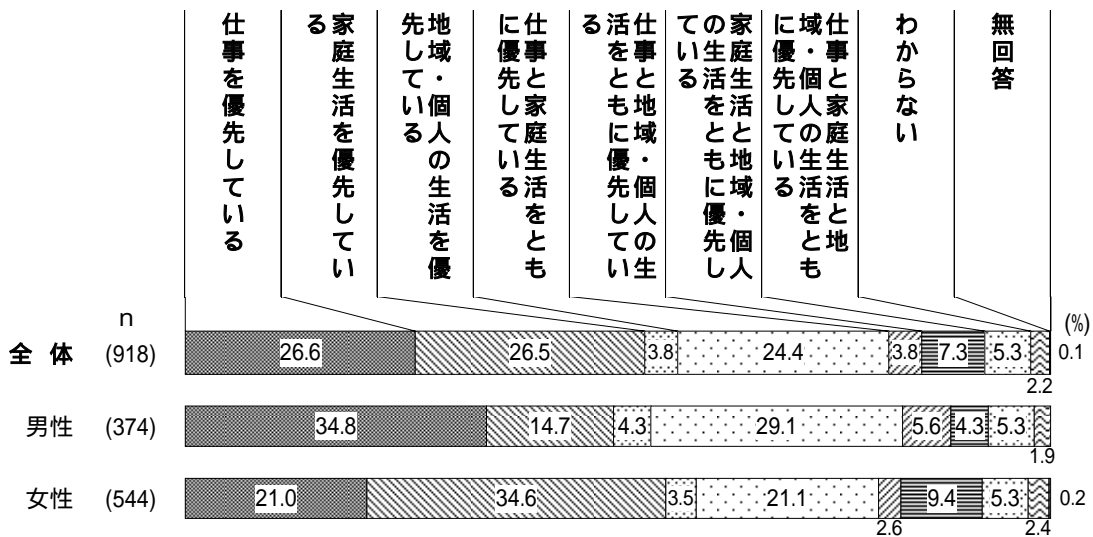
家庭生活の優先度

家庭生活の優先度について尋ねたところ、＜希望＞は「仕事と家庭生活をともに優先したい」が最も多く、次いで「家庭生活を優先したい」となっています。また、＜現状＞は「仕事を優先している」、「家庭生活を優先している」、「仕事と家庭生活をともに優先している」が多くなっています。性別でみると、＜希望＞は「家庭生活を優先したい」で女性が男性を上回っています。また、＜現状＞は「仕事を優先している」で男性が女性を上回っており、「家庭生活を優先している」で女性が男性を上回っています。

<希望>



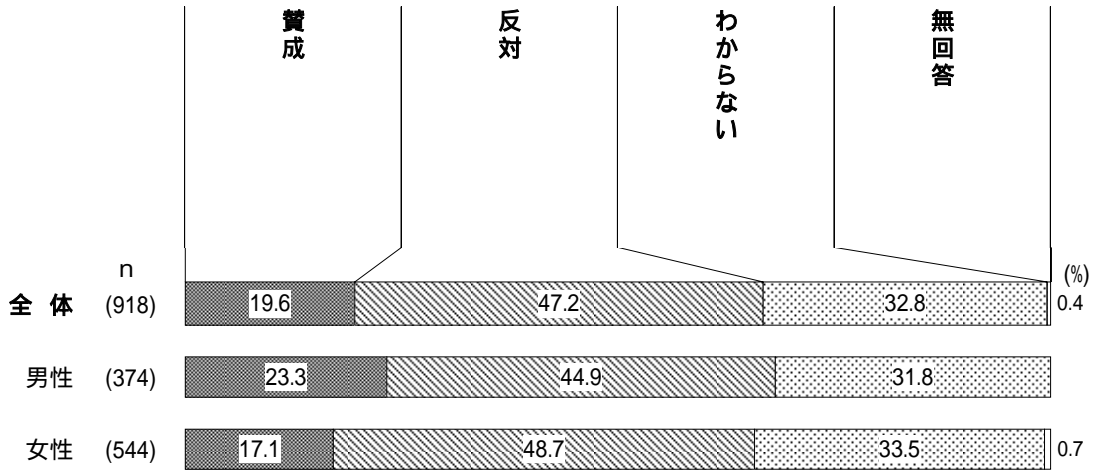
<現状>



2 家庭生活について

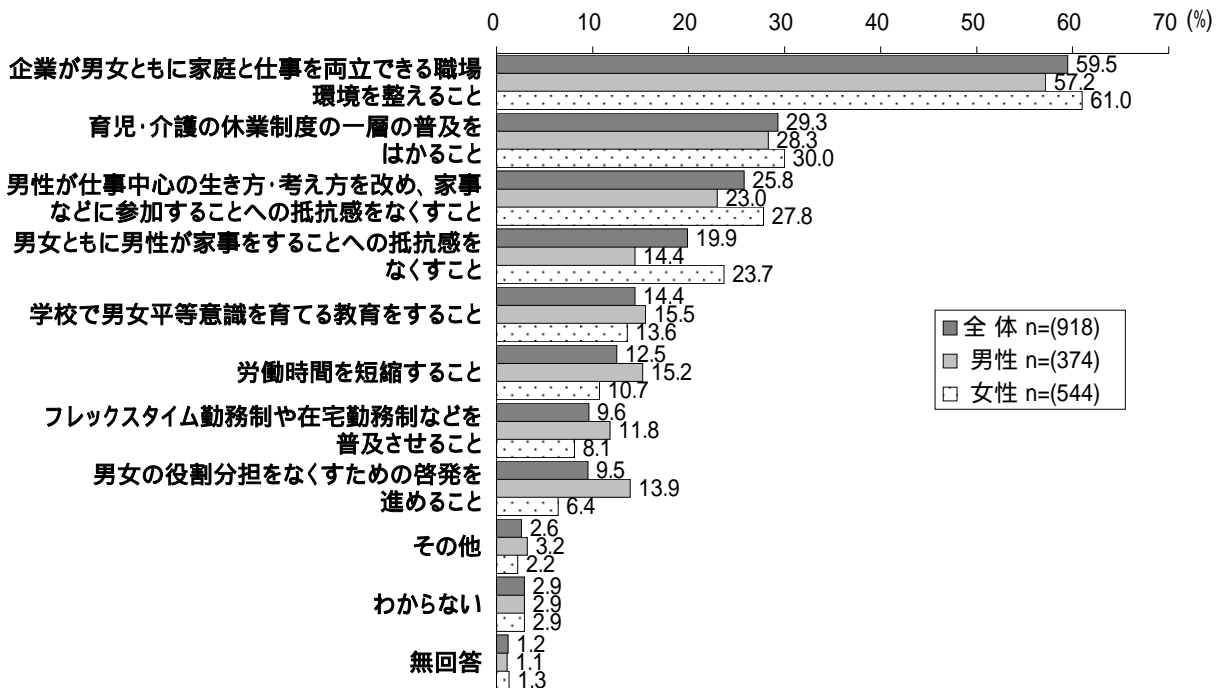
性別役割分業についての考え

性別役割分業についての考えを尋ねたところ、全体では「反対」が「賛成」を大きく上回っています。性別で見ると、「賛成」で男性が女性を上回っています。



男性の仕事と家庭の両立に必要なこと

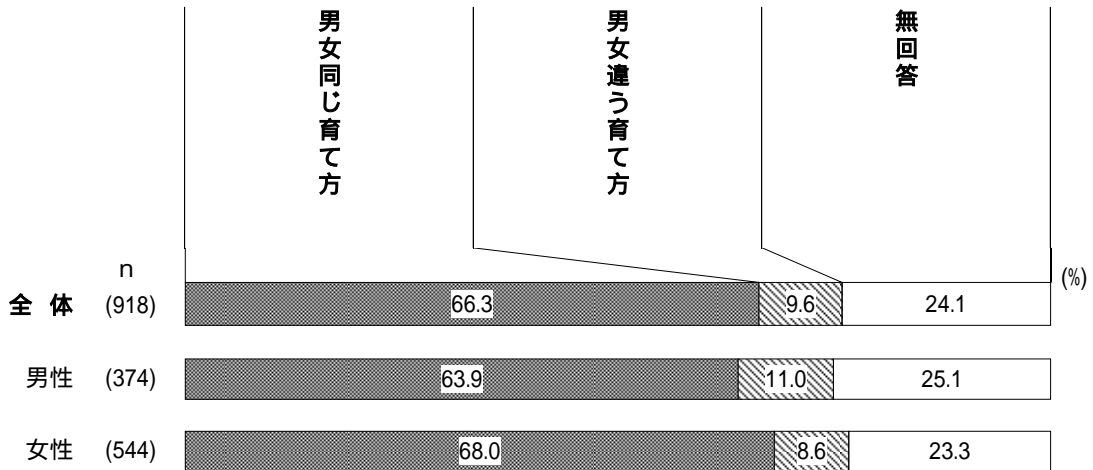
男性の仕事と家庭の両立に必要なことを尋ねたところ、「企業が男女ともに家庭と仕事を両立できる職場環境を整えること」が最も多くなっています。性別で見ると、「男女ともに男性が家事をすることへの抵抗感をなくすこと」で女性が男性を上回っています。



3 子育て・教育について

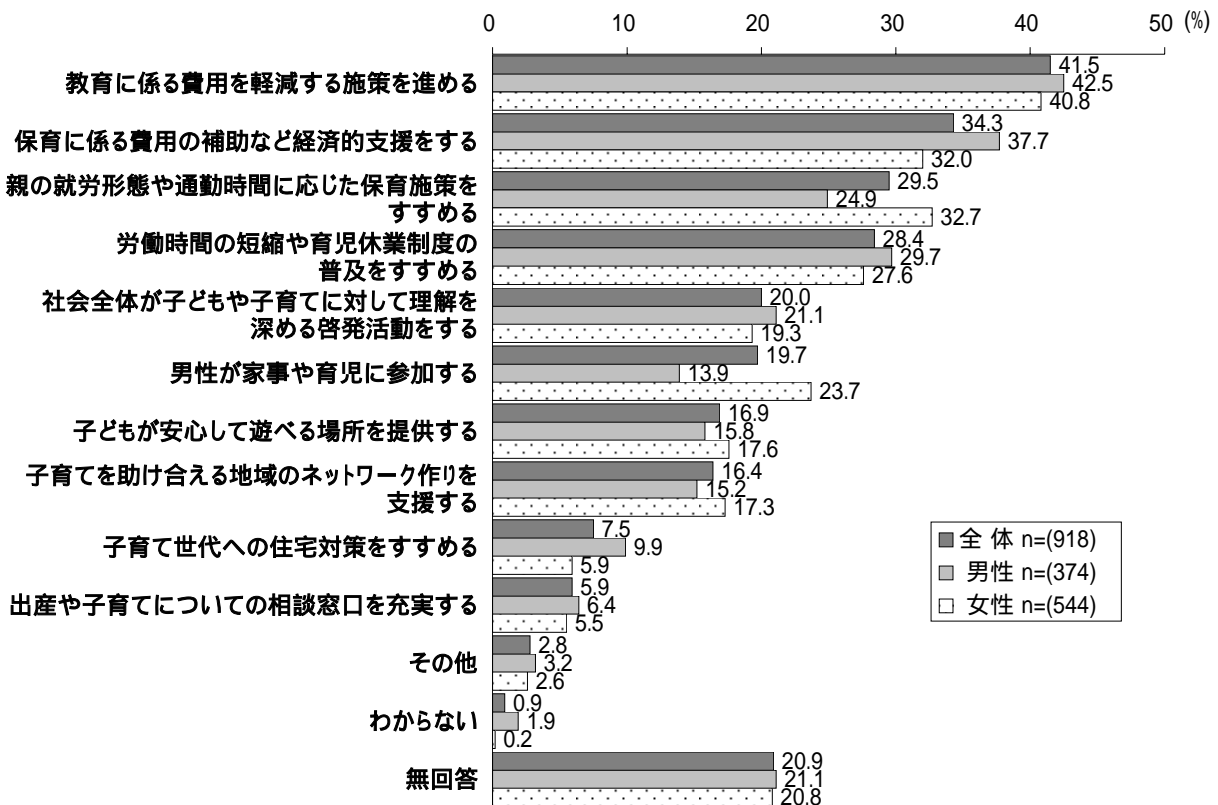
子どもに望む育ち方

子どもに望む育ち方を尋ねたところ、「男女同じ育て方」が「男女違う育て方」を大きく上回っています。性別で見ると、「男女同じ育て方」で女性が男性を上回っています。



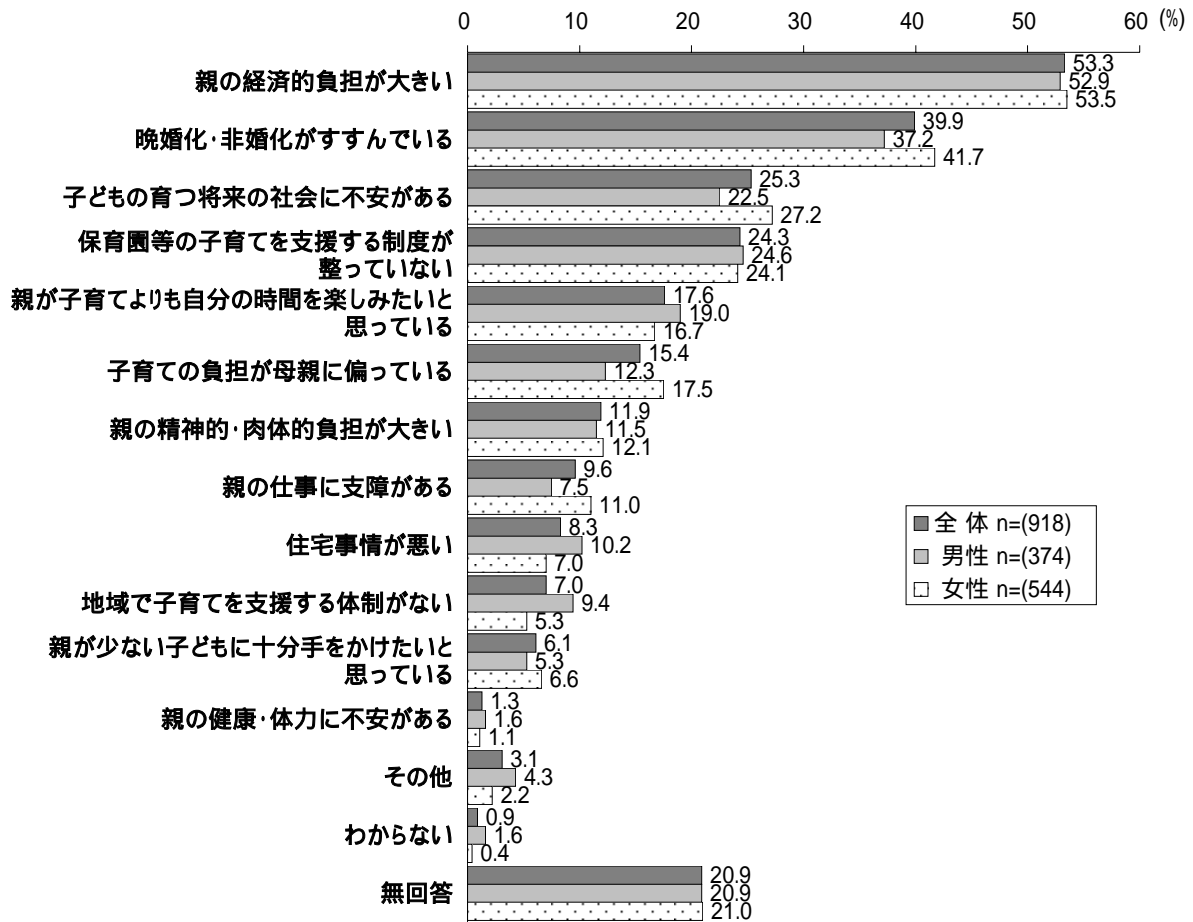
安心して子どもを生き育てられる社会にするために必要なこと

安心して子どもを生き育てられる社会にするために必要なことを尋ねたところ、「教育に係る費用を軽減する施策を進める」が最も多く、次いで「保育に係る費用の補助など経済的支援をする」となっています。性別で見ると、「保育に係る費用の補助など経済的支援をする」で男性が女性を上回っており、「親の就労形態や通勤時間に応じた保育施策をすすめる」、「男性が家事や育児に参加する」で女性が男性を上回っています。



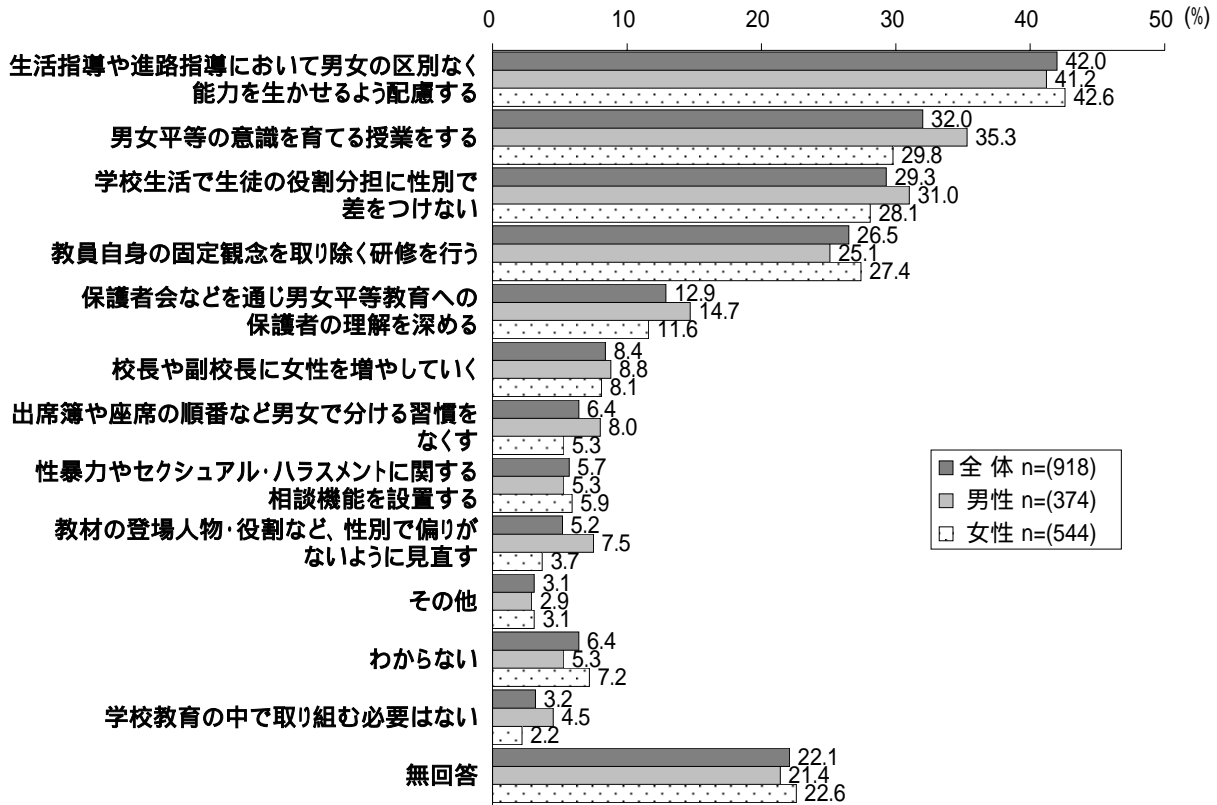
少子化の原因

少子化の原因を尋ねたところ、「親の経済的負担が大きい」が最も多く、次いで「晩婚化・非婚化がすすんでいる」となっています。性別で見ると、「子育ての負担が母親に偏っている」で女性が男性を上回っています。



男女平等教育で学校に望むこと

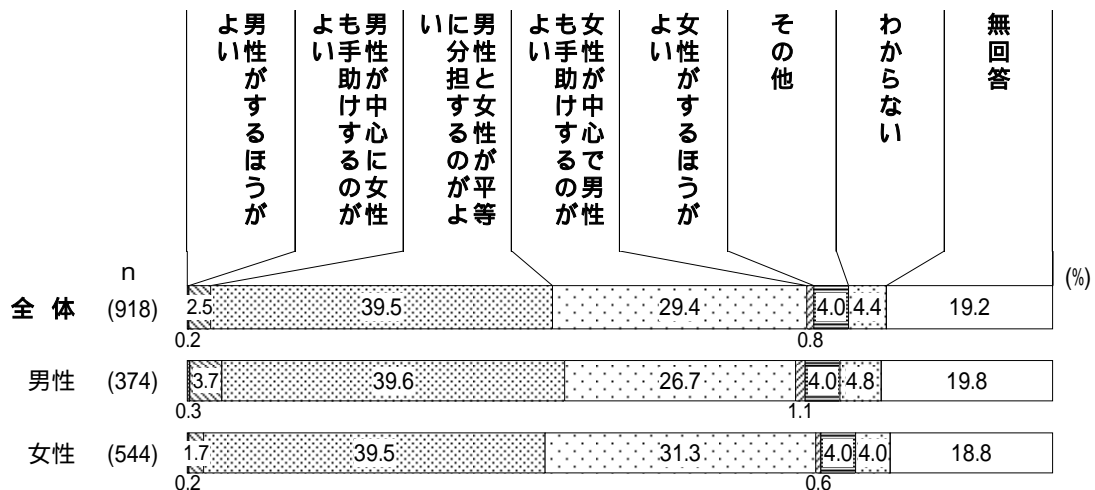
男女平等教育で学校に望むことを尋ねたところ、「生活指導や進路指導において男女の区別なく能力を生かせるよう配慮する」が最も多く、次いで「男女平等の意識を育てる授業をする」、「学校生活で生徒の役割分担に性別で差をつけない」、「教員自身の固定観念を取り除く研修を行う」となっています。性別で見ると、「男女平等の意識を育てる授業をする」で男性が女性を上回っています。



4 介護について

女性が介護の中心となる現状についての考え

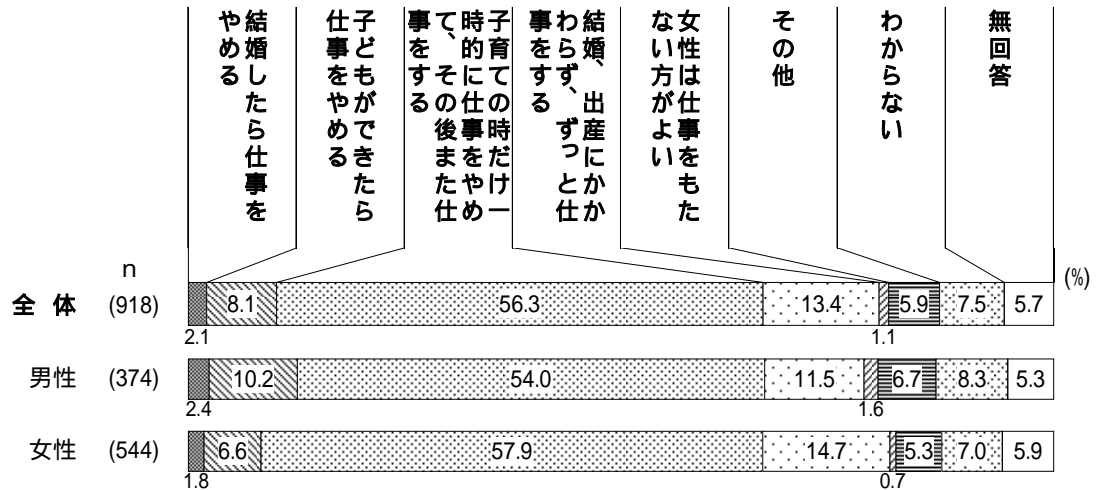
女性が介護の中心となる現状についての考えを尋ねたところ、「男性と女性が平等に分担するのがよい」が最も多く、次いで「女性が中心で男性も手助けするのがよい」となっています。性別で見ると、「女性が中心で男性も手助けするのがよい」で女性が男性を上回っています。



5 就労について

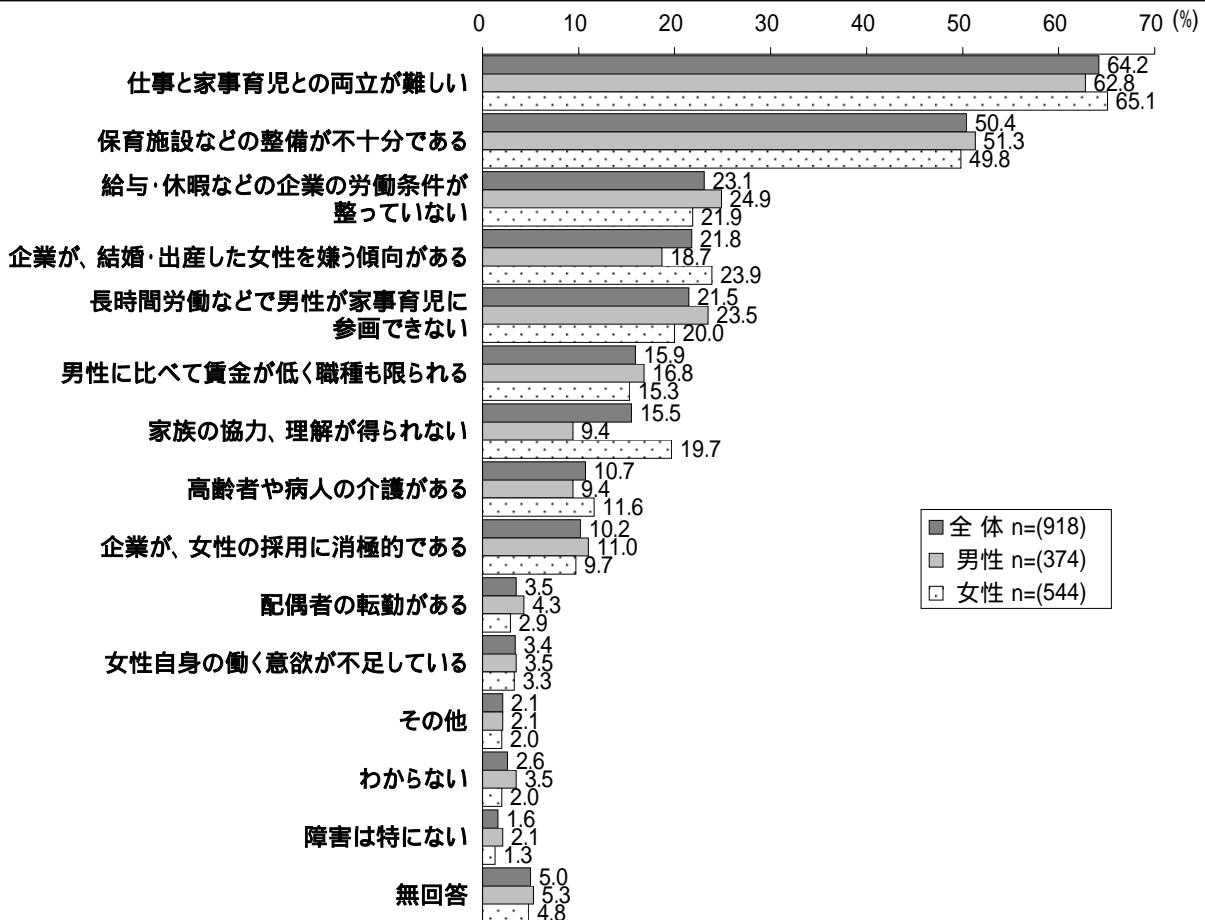
女性の理想の働き方

女性の理想の働き方を尋ねたところ、「子育ての時だけ一時的に仕事をやめて、その後また仕事をする」が最も多くなっています。性別で見ると、「子どもができたから仕事をやめる」で男性が女性を上回っており、「子育ての時だけ一時的に仕事をやめて、その後また仕事をする」で女性が男性を上回っています。



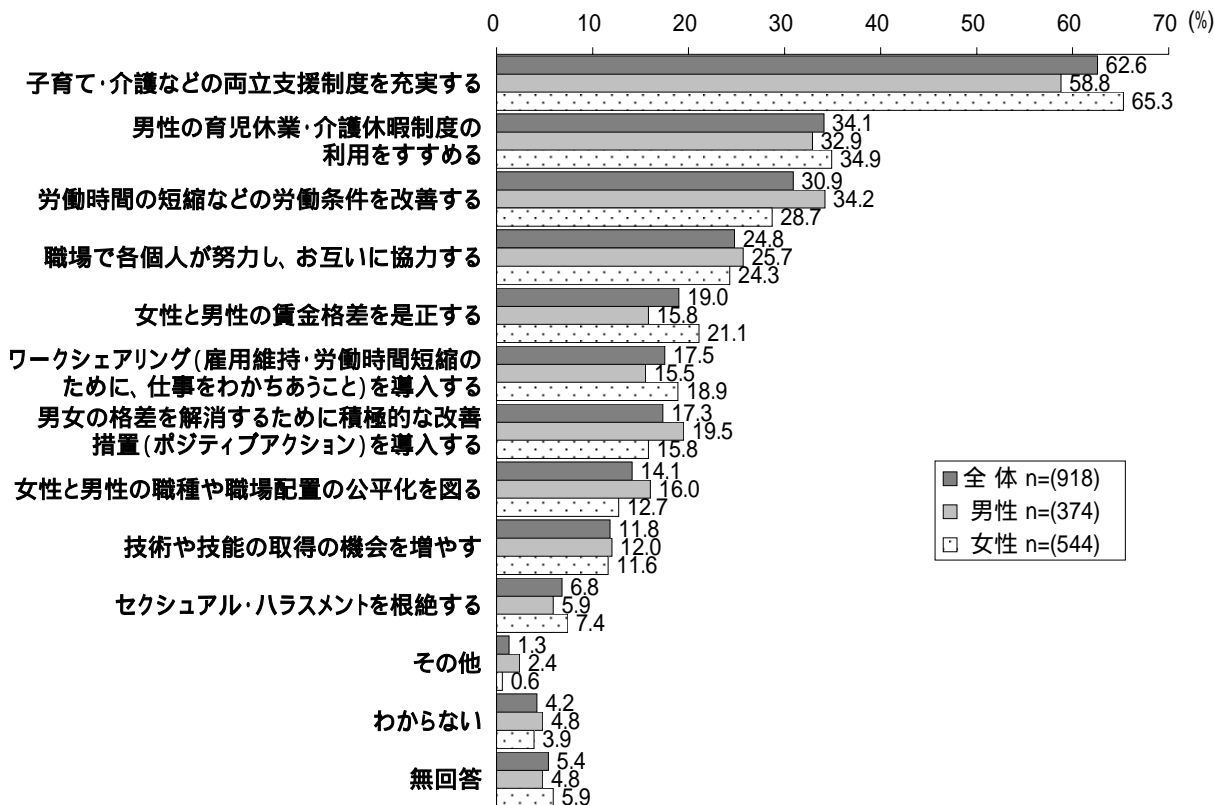
女性が働く上での障害

女性が働く上での障害を尋ねたところ、「仕事と家事育児との両立が難しい」が最も多く、次いで「保育施設などの整備が不十分である」となっています。性別で見ると、「企業が、結婚・出産した女性を嫌う傾向がある」、「家族の協力、理解が得られない」で女性が男性を上回っています。



男女が働きやすい環境をつくるために重要なこと

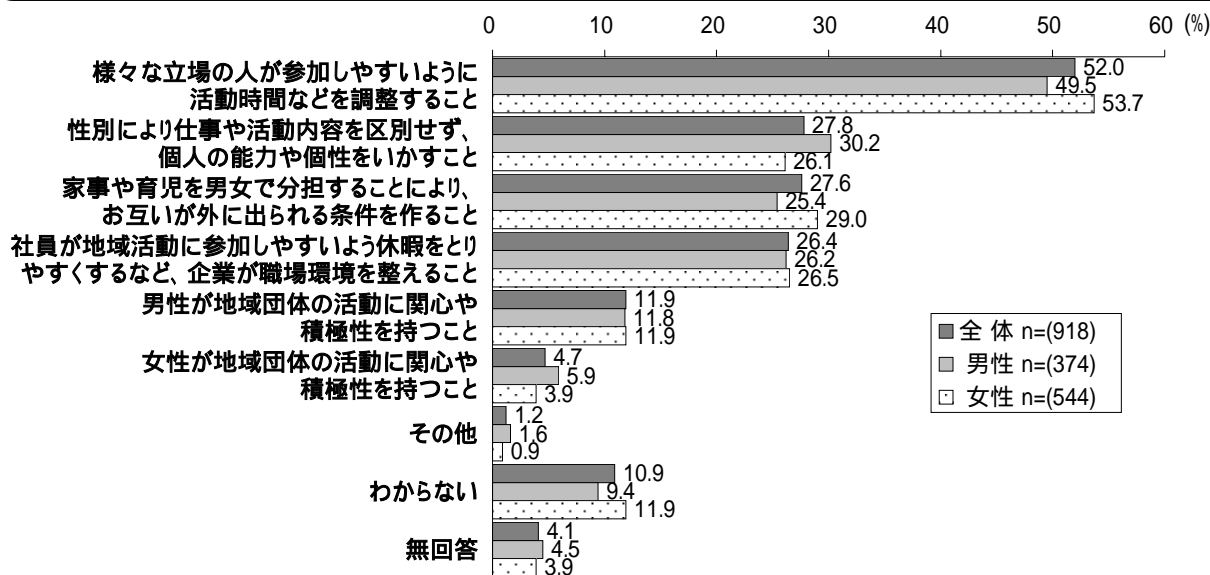
男女が働きやすい環境をつくるために重要なことを尋ねたところ、「子育て・介護などの両立支援制度を充実する」が最も多くなっています。性別で見ると、「労働時間の短縮などの労働条件を改善する」で男性が女性を上回っており、「子育て・介護などの両立支援制度を充実する」、「女性と男性の賃金格差を是正する」で女性が男性を上回っています。



6 社会参加・地域活動について

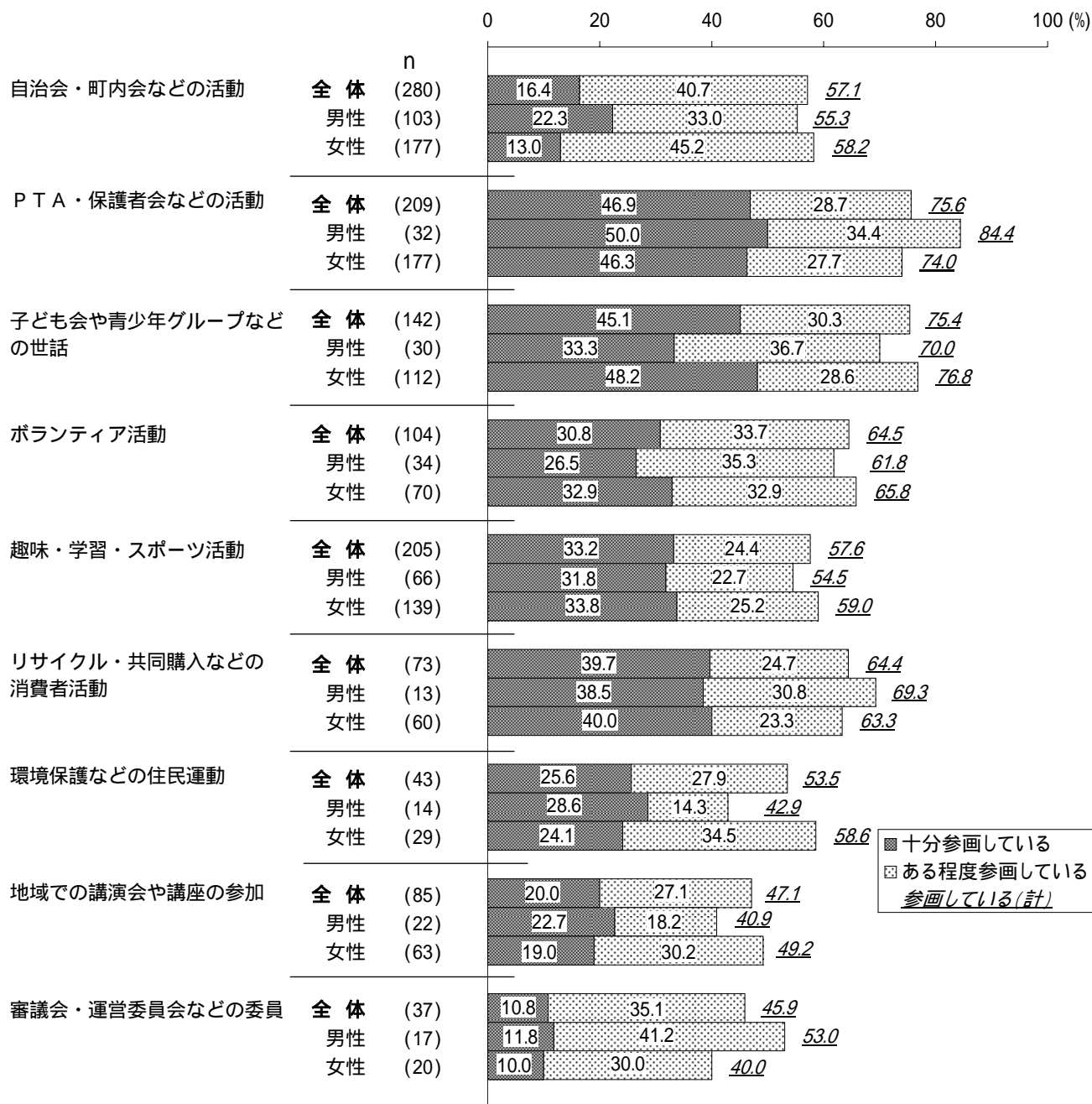
地域活動における男女共同参画をすすめるために必要なこと

地域活動における男女共同参画をすすめるために必要なことを尋ねたところ、「様々な立場の人が参加しやすいように活動時間などを調整すること」が最も多くなっています。性別で見ると、「性別により仕事や活動内容を区別せず、個人の能力や個性をいかすこと」で男性が女性を上回っています。



方針決定過程への女性の参画程度

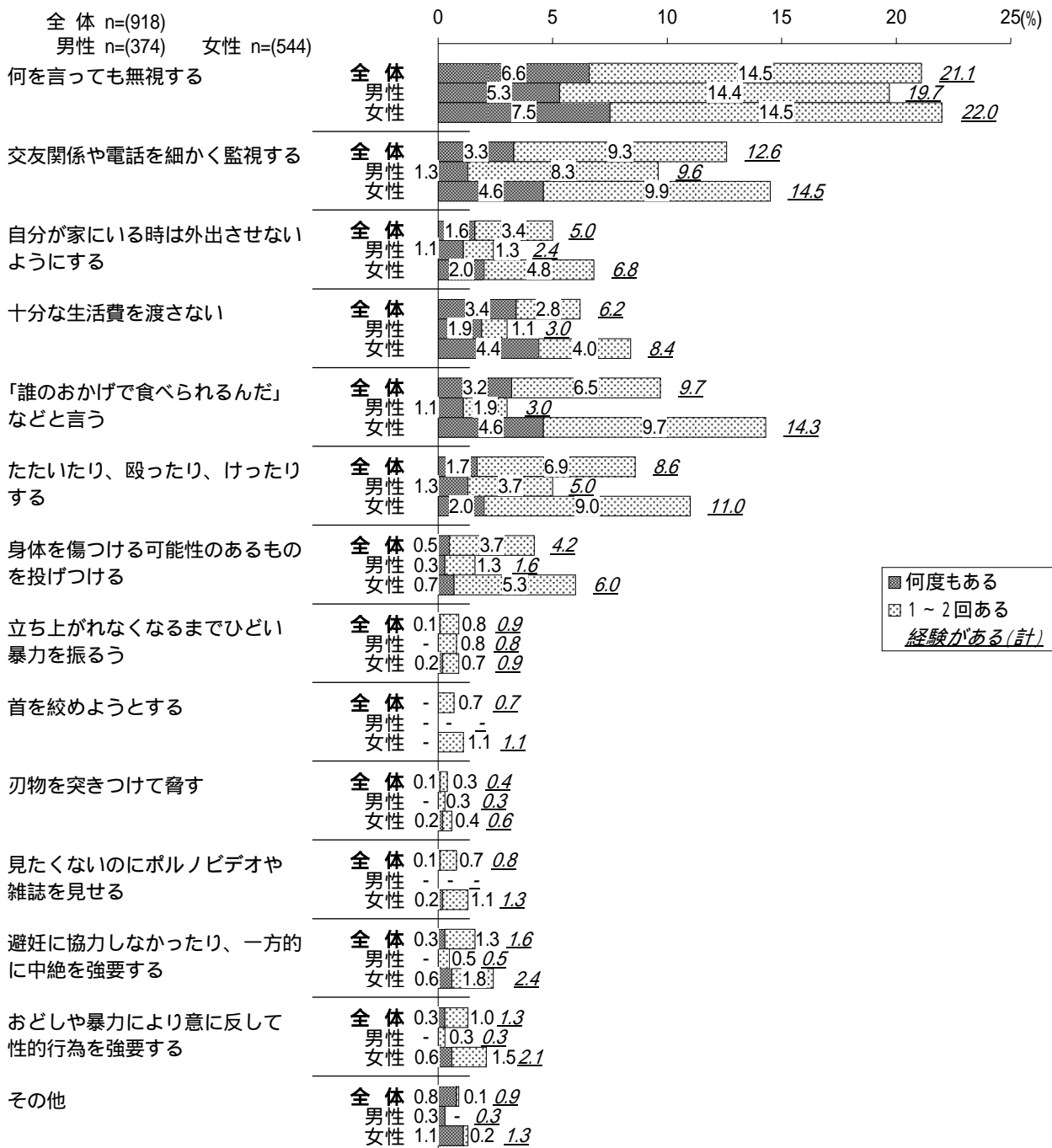
参加したことがある活動について、方針決定過程への女性の参画程度を尋ねました。「十分参画している」と「ある程度参画している」を合わせた 参画している（計） が高い順にみると、< P T A ・保護者会などの活動 >、< 子ども会や青少年グループなどの世話 > の順に多く、次いで < ボランティア活動 >、< リサイクル・共同購入などの消費者活動 > となっています。



7 人権について

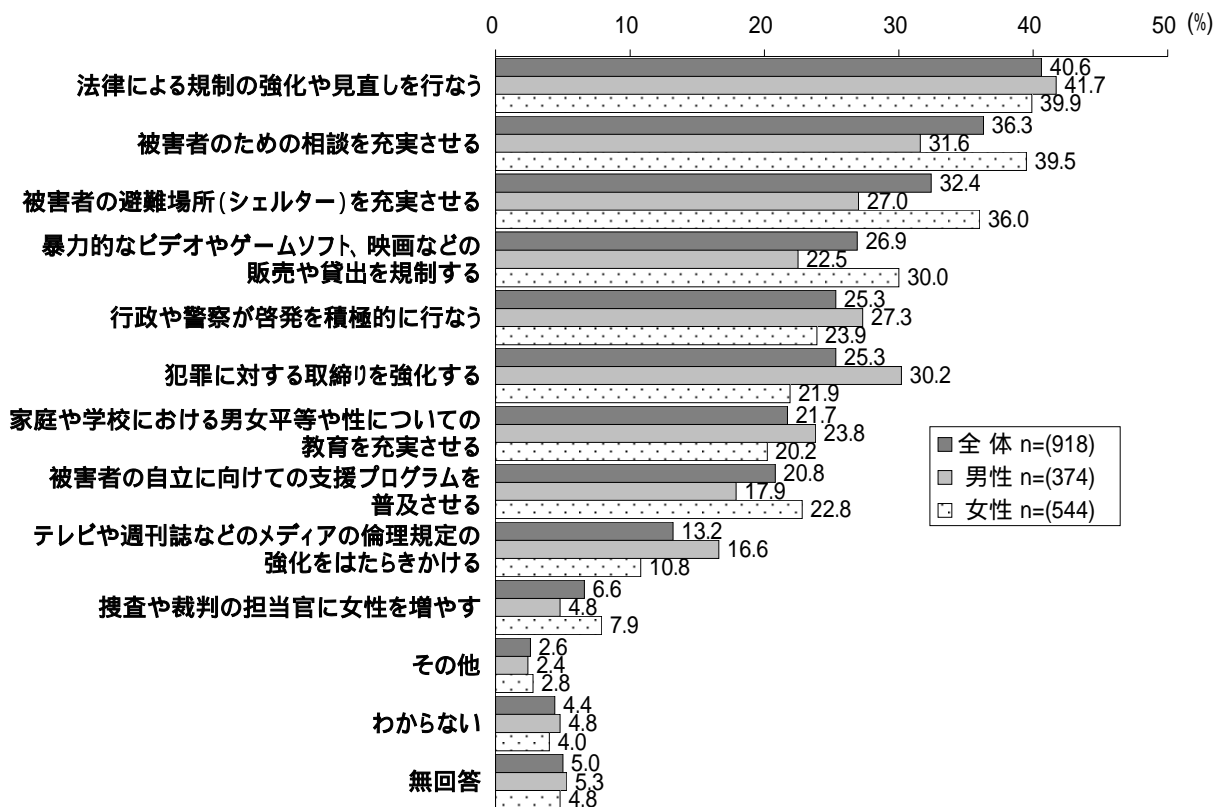
パートナーからの暴力の有無

パートナーからの暴力の有無について尋ねたところ、「何度もある」と「1～2回ある」を合計した 経験がある(計) は<何を言っても無視する>で最も多く、次いで<交友関係や電話を細かく監視する>、<「誰のおかげで食べられるんだ」などと言う>、<たたいたり、殴ったり、けったりする>となっています。性別で見ると、 経験がある(計) は<何を言っても無視する>で男女ともに最も多く、女性では<交友関係や電話を細かく監視する>、<「誰のおかげで食べられるんだ」などと言う>、<たたいたり、殴ったり、けったりする>で多くなっています。



女性に対する暴力の防止や被害者の支援のために必要な対策

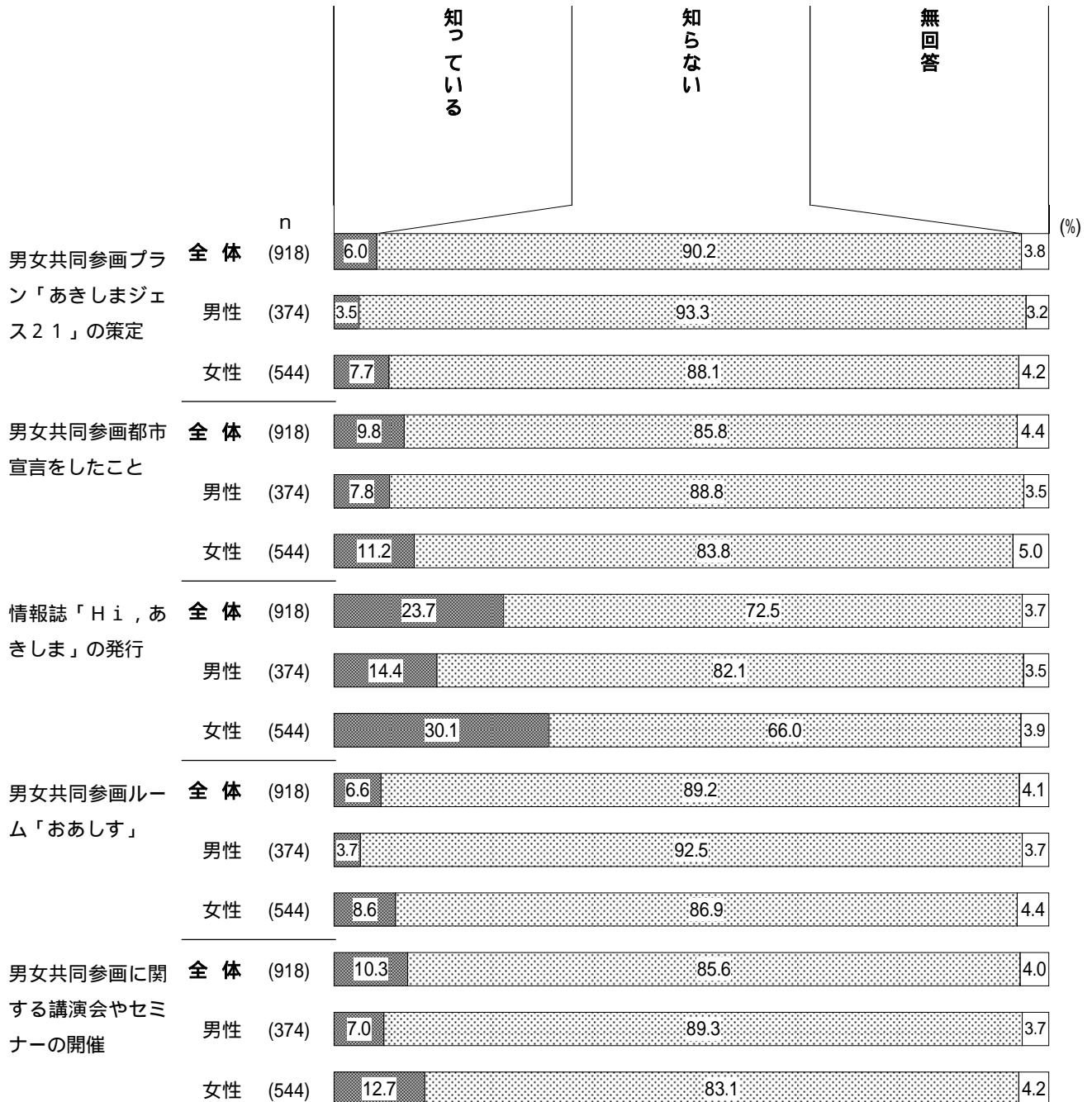
女性に対する暴力の防止や被害者の支援のために必要な対策を尋ねたところ、「法律による規制の強化や見直しを行なう」が最も多く、次いで「被害者のための相談を充実させる」、「被害者の避難場所(シェルター)を充実させる」となっています。性別で見ると、「犯罪に対する取締りを強化する」で男性が女性を上回っており、「被害者のための相談を充実させる」、「被害者の避難場所(シェルター)を充実させる」で女性が男性を上回っています。



8 男女共同参画社会の実現に向けて

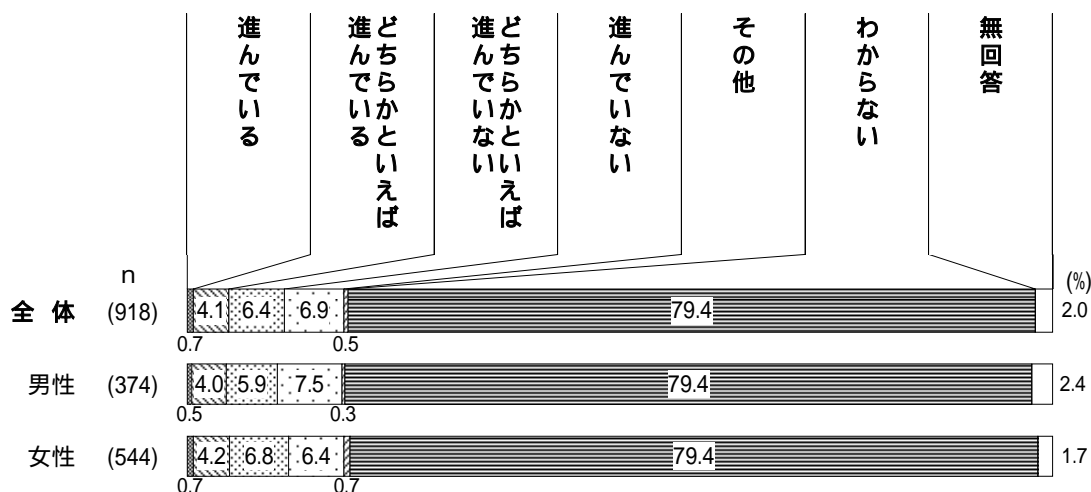
昭島市の事業の認知状況

昭島市の事業の認知状況について尋ねたところ、「知っている」は<情報誌「Hi, あきしま」の発行>で最も多く、次いで<男女共同参画に関する講演会やセミナーの開催>、<男女共同参画都市宣言をしたこと>となっています。性別で見ると、「知っている」はすべての項目で女性が男性を上回っており、特に<情報誌「Hi, あきしま」の発行>で大きく上回っています。



昭島市の男女共同参画推進の程度

昭島市の男女共同参画の程度について尋ねたところ、「わからない」が最も多く、性別では、特に大きな差はみられません。



男女共同参画のために市に推進してもらいたいこと

男女共同参画のために市に推進してもらいたいことを尋ねたところ、「高齢者や病人の介護サービスなど福祉の充実」が最も多く、次いで「多様なニーズにこたえられる子育て支援の充実」となっています。性別で見ると、「学校での男女平等意識を育てる教育の充実」で男性が女性を上回っており、「多様なニーズにこたえられる子育て支援の充実」、「女性の就労支援の充実」で女性が男性を上回っています。

